

令和6年第1回南牧村総合教育会議 議事録

議 事 日 程

令和6年4月19日（金曜日） 午前 11 時 00 分 開会

- 1 開 会
 - 2 村長挨拶
 - 3 会議事項
 - (1) 南牧村の子どもの未来像【～20年後、どんな子どもに育ててほしいのか～】
 - (2) 総合学校の形態
 - 4 その他
 - 5 閉 会
-

本日の会議に付した事件

議事日程と同じ

会議出席者

村長 有坂良人 副村長 高見沢澄一
教育長 今井力 教育委員 吉沢忠彦 教育委員 菊池丈彦
教育委員 高見沢みち子 教育委員 高見沢真紀

事務局職員出席者

総務課長 津金初男 指導主事 渡辺元子 次長 津金義秀

開会 午前 11 時 00 分

◎開会の宣告

- 津金総務課長 それでは、定刻前ですけれども、皆さんおそろいでございますので、令和6年度第1回南牧村総合教育会議を始めさせていただきたいと思います。
-

◎村長挨拶

○津金総務課長 会議に先立ちまして、有坂村長からご挨拶をお願いいたします。

○有坂村長 皆さん、改めまして、こんにちは。

今日は令和6年度の第1回の南牧村総合教育会議ということでお集まりをいただきましてありがとうございます。教育委員の皆さんには日頃から村の教育関係にご尽力をいただきまして感謝を申し上げます。

長年の懸案であります学校問題でありますけれども、これまで学校づくり委員会、あるいは学校検討委員会、これからの学校について検討するワークショップで様々な議論が行われてきましたけれども、南牧村の宝である子どもたちの未来像、どんな子どもに育ててほしいかを真剣に議論していただき、今後は5月中をめどに各地区の懇談会等を開き、多くの皆さんにご意見をいただき、また、視察等もしたりとか、専門家の意見等、あるいは助言も求めながら、今年度中に皆様の意見を集約して方向性を出して進めていきたいと思っておりますので、特に教育委員の皆さんにまたご協力をいただきたいと思いますけれども、よろしくお願いいたします。

○津金総務課長 ありがとうございます。

◎会議事項

○津金総務課長 それでは、早速ですけれども議事に入らせていただきます。

本日、議題につきましては、教育委員会から南牧村の子どもの未来像について、それから、総合学校の形態についてということで、2つの議題が示されております。

まず初めに、(1)の南牧村の子どもの未来像についてを議題としたいと思っております。

この議題につきましては、補足説明が教育長からありますので、教育長のほうからお願いいたします。

○今井教育長 それでは、大変お疲れさまです。

本日、この会議で協議していただきたい事項について補足させていただきます。

これまで、学校統合に向けた学校づくり委員会ですとか、学校検討委員会、昨年行われましたこれからの学校についての検討など、これまで様々な検討が進められてきたところです。どういった学校をつくるのかということが話されてきたわけですけれども、これまでの学校統合が進まなかった一つには、南牧村の子どもの未来像というものがはっきり示されていなかったことが進まなかったことの一つでもないかなというふうに思っているところです。

そういった中で、今日の会議でお集まりいただきました皆様に南牧村の子どもの未来像というものを共有していただいて、学校統合の建設に進めばなというふうに思っているところです。

この後、渡辺指導主事から、昨年行われましたこれからの南牧村の学校でどんな子どもに育ってほしいのかについて出されました意見をご紹介いたしまして、その後、村長さんですとか教育委員の皆さんからご意見をいただいていますので、よろしくお願ひいたします。

以上です。

○津金総務課長 ありがとうございます。

それでは、渡辺指導主事のほうからご説明をお願いいたします。

○渡辺指導主事 では、よろしくお願ひします。

昨年度、3回シリーズで、これからの南牧村の学校、自由な視点で話を出していただくという会議を行いました。第1回が7月24日、2回目が9月20日、3回目が11月25日です。その中、本当に様々なお話がありましたが、これからの南牧村の子ども像について出された意見をまとめてあります。ご覧ください。

あまりまとめませんが、自由な発想が持てる子ども、創意工夫をしてほしい。他者を認めながら多様性を認めて自分の考えを持ってほしい。ものの見方を育むためには多様性の接点があったりして、ギャップやストレスを乗り越える力、失敗してもくじけない、失敗を生かす。これからはいろんな人と接していく、外国の人とも接する、そういう力を育む。何十年先を見越した、人の痛みが分かる。駄目なもの、いいことが分かる。本質を見抜く力、人間関係を築く力、自分の考えを発信できる力、社会の仕組みを学ぶ力、社会に適應できる力。物おじしない子に育てたい。自主性を育てることが大事。コミュニケーション能力をつける。いろんな人と関わっていくことが大事。ウェルビーイングは自然の中で育つ。主体的に学ぶ力、多様性を認め合える。関わり方を学ぶと学びが深まる。多様な考えを持つ。協調性。このようなことが参加していただいた方からは出されています。

以上です。

○津金総務課長 ありがとうございます。

今、未来像についての何か総体的なご意見とかございますか。

○今井教育長 では、私から。

現在、人工知能ですとか、そういった発達が急速に進む中で、これから大きく社会が変わ

ろうとしている中で、子どもたちが学校でのそういった学習を通じて本質を見抜く力ですとか、自分の頭でしっかり、それから考えて答えを出す力、こういったものが南牧村の教育にはこれから必要じゃないかなというふうに私は思っております。

以上です。

○津金総務課長 教育委員さんのほうから何かご意見等ございましたらお願いしたいと思うんですが。

○吉澤教育委員 とにかく様々な意見があって、集約するのが難しいんですけども、このもらった意見を大事にしたいということですので、とにかく大事に大事に育てていきたいという意見も大事にしたいというような考えです。すみません、まとまらなくて。

○津金総務課長 これは、今の3回やった中で、親御さんから出た。

○渡辺指導主事 参加していただいた村民の方。親御さんとは限りません。

○津金総務課長 限らないんですね。

○高見澤副村長 質問していいですか。

○津金総務課長 はい。

○高見澤副村長 ここに未来像が何十件か列記されているんですが、これを何か集約しないと、ただこれが、未来像が20も30もあるだけ、どういうふうに理解したらいいかわからないですが、こういった部分を。出された意見を集約しないと未来像とは見えないんですけども、あまりにもこういう、意見が出過ぎて。

○津金総務課長 たくさんあり過ぎて。

○今井教育長 たくさんあり過ぎるからこそ、この教育会議へ、協議したいということで教育委員会側へ申し入れたわけですから、ここでいろいろな、教育委員さんも含めていろいろな意見を出し合っていて、そして、村長さんが、じゃ、私は20年先の教育、要は南牧村の教育をこういうふうにしていきたいというものを一つ出していただくということがこの場での話合いになると思うんですが、確かにこのまま列記したものからではなかなか集約できない。

○高見沢みち子委員 ただ、ここに本当に多様性とはいろいろあるんですけども、本当に文科省の教育指針とかもすごくこのところで変わってきていて、今までのような、先生が全員に向けて同じ授業をするというところから、一人一人が主体的に何かを見つけて学んでいくという形に、個々の存在を大切にしていくというか、先生たちも教え方が変わってくるというか、子どもたちの学び方も変わってくるという、それは本当に今過渡期で、今までのよ

うに考えていくことはやっぱり難しいと思うんですけれども、だから、学校、なかなか進みませんでしたが、そういうことも含めて、教室も今いろんな学校も、形もいろいろ変わってきていて、今までと同じような教室に同じ向きで机が並んでいるという感じじゃなくて、仕切りがなかったりとか、どこでも好きなところで勉強していいとか、そういうふうな本当にちょっと難しいというか、子どもたちをどういうところに、やっぱり 20 年、30 年先の子どもたちがどういうふうになってほしいかというのはとっても大事だと思うんですけれども、大人がなってほしいというのと子どもがこうなりたいというの、何か本当に難しいと思うんですが。本当にちょっと難しいところにあると思います。

- 高見澤副村長 こういった未来像の中で、出された未来像の中で、もう教育委員の皆さんの中でしっかり議論した中で、こういった方向性というのをここへ出してもらわないと、ただ、この未来像出されても、ちょっと議論のしようがないんだけど。
- 今井教育長 そうであれば、村長が要は当選してきて、学校統合するといった中で、じゃ、どういう、子どもの未来像を持っているのかというその発言だけでもいただければ、私たちとしてみれば、それを踏まえた中での議論というのはできると思うんですよね。一方的に教育委員の皆さん、こうですよと言って、考えて、示したとて、やっぱり村長の考えというのも大切ですから、みち子さん言ったように、これまでは先生が 1 人いて、集団的な一方的な教育というものを児童・生徒にしていたわけですが、文科省の方針の大転換で個別最適な学びということで、子ども一人一人に合った学び方というのがあるだろうということで、今、学校現場というのは大きく変わろうとしているわけですよね。そういった中で、南牧村の教育というものを、じゃ、それを踏まえてどういうふうにしていくのかというところを我々教育委員会もこれから探していくんですけれども、村長さんとしても、じゃ、それについてどういうふうを考えているのかというところは示していただきたいと思うんですよね。
- 有坂村長 私の基本的な考え方というのは、この村の現状、子どもたちの学校の現状を見たときに、やはり生徒数が非常に減ってきて、1 クラス 4 人のクラスもあるような状況の中で、これからも増えるということはまず難しいと。現状維持、あるいは減っていく中で、どういうふうに学校というものを考えていくかということなんですけれども、究極の目標というのは、この南牧村の子どもたちが社会に出て通用する人間をつくらなくちゃいけないというのが究極の目標だと思うんです。

今、文科省とか、いろいろな教育方針というのが変わってきているというふうにも聞いていますけれども、じゃ、それが全国的にどういうスピードで進んでいるのかというのもまだ

はっきり分かっていないという状況の中で、専門的な皆さんのご意見、今までもいろいろな、視察をしたりとか、専門家の話を聞いたりですとか、話し合われてきた中、そういう経過もいろいろ聞かせていただいた中で、学校統合というのは私は、この村の中を見たときに、この小さな村の中に学校が2つあって、そして、小学校が2つあって、統合というのはもう考えていかなくちやならないんじゃないかというのは思っているところで、これは実施しなければいけないと思っていますけれども、じゃ、どういうふうな学校をつくっていくのかというのは、小中一貫校であったりとか、義務教育学校だとかというのがあると思いますけれども、そこら辺のところもしっかりと皆さんにいろいろな意見を聞いた中で判断していきたいと思っていますけれども、長年答えが出ないで過ぎてきた期間というのが多くある南牧村ですから、ここは相当議論も今までされてきていると思いますから、いろいろな意見を集約した中で、今年度中に方向性を出して、また議論していただいて、早急に進めていきたいと思っていますけれども、先ほども申しましたけれども、究極の目的は社会の中で生きていく子どもたちですから、社会に出て通用する子どもたちをつくりたいというのが、抽象的な言い方も分からないですけれども、そういう子どもたちを育てていかなければいけないというふうに思っていますので、そんなところで、皆さん、いろんなご意見を言っていただきたいと思っていますけれども、よろしくお願いします。

○今井教育長 では、村長さんが言われる子ども未来像というのは、社会に出て通用する人間、じゃ、その通用する人間というのは具体的にどういう人間ということですか。

○有坂村長 それは、やはり、社会の中で生きていきますから、社会の中でやっぱり孤立しては駄目だと思いますし、協調性もあったりとか、自分の考えもしっかりと持っていて、自分の意見もしっかりと言える子ども。物おじしないでいろいろなところで発信できる子どもというのも必要だと思いますし、やはり、先ほどからも話に出ていますけれども、一人一人の主体的に個々の存在を大切にすることということも必要なんですけれども、それも大切にしていくなかで、やはり最終的な目標というのは、やはりこの社会に出て通用する人間、社会に出て、この人間は使い物にならないと言われるような人間にはなってほしくない。また、そういう人間をつくっていかなくちゃいけないと思っていますので、私もはっきりとした答えというのは今の時点ではこういう学校がこれでいいんだというのがはっきりとした答えというのが持っていなくて、いろいろな皆さんの意見を集約した中で、方向性というのは決めていきたいと思っていますけれども。

○今井教育長 では、今、村長さんが、まだ意見はしっかり固まっていないけれども、村長さ

んが社会で通用する人間というのは、孤立しない、要は協調性があるというような言葉に置き換えられるかもしれないけれども、社会の中で孤立しない。そして、自分の考えをしっかりと持って、その考えを発信できる。そういった人間がやはりこれから必要になってくるんじゃないか、大切になってくるんじゃないか。今現時点で。

○有坂村長 現時点ではそう思っていますけれども。

高学歴の人も今世の中にたくさんいますけれども、じゃ、その人たちが本当に社会に出て、社会の中で通用するののかといたら、また別問題だと思うんですよね。ですから、要するにこれから学びの中で、社会に出て通用する人間をつくってもらいたいというのが究極の目標なんですけれども。

○高見澤副村長 ちょっといいですか。

今、村長のほうから学歴の話が出たんですけども、今の南牧村の小・中学校の児童・生徒さんの学力というのは、何か、何とかテストとあるじゃないですか。そのレベルというのはどうなんですか。

○高見澤教育長 では、渡辺先生。

○渡辺指導主事 昨年度の結果からでいうと、平均よりあまり下がってはいないです。平均より少し上。

○高見澤副村長 それは小中校含めてですね。

○渡辺指導主事 そうです。

○津金総務課長 体力テストとかもあるじゃないですか。あれはどうですか。

○渡辺指導主事 体力テストも特に、種目というか、それによっては差はありますけれども、平均すると、そんなに悪くはありません。

○有坂村長 平均的ということですか。

○渡辺指導主事 そうですね。

今年見えた小池校長先生は、中学生は体力的に思っていたよりもよくてびっくりしたという感想でした。

課題でいうと、読書量です。そこは全国的にそういう傾向にあるんですけども、本を読まない傾向はあります。あと新聞を読まない。そういうところは課題として見受けられます。

○有坂村長 これは、社会に出て通用する人間というのは、それぞれの見方だとか感じ方とかというものもあるから、一概にこういう人間だということは言えないんですけども、皆さんの中にもあると思うんですけども、やっぱり自分の子どもたちを、例えば、分かりや

すく言うと、自分の子どもたちが、じゃ、これから大きくなってって、社会の中で生きられるんだろうかと。その中でやっぱり社会の中に溶け込んで、自分の個性や何かも発揮しながら、しっかりとやっぱり生きていける人間というのをつくらなくちゃいけないと思うんですよね。

○津金総務課長 教育長、あれですか。この会はそういった、要は村側と教育委員会側の意思の疎通と、あとは共通した認識を持つということが非常に重要なところなんですよね。

○今井教育長 そういうことですよ。

だから、ここですぐに解を、答えを。

○津金総務課長 求めるとかそういうことじゃない。

○今井教育長 答えを出すというんじゃないくて、ですから、例えば、あと、真紀さん、まだ発言されていないので、真紀さんに今の時点でどんな未来像かなというのを聞いていただいて、これを皆さん一通り出た後で、もう一回、それぞれが持ち帰って、また議論してという形にしたいなと思います。

○津金総務課長 そうですね。

今言った村長の意見というか。

○今井教育長 村長の意見というのはやっぱり、村長さん、どういう考えを持っているのかというの、我々教育委員会側も知ることができたので、それは大変いいと思うんですよね。

○津金総務課長 この中のたくさんある項目の中で。

○今井教育長 項目をさらに。

○津金総務課長 今の村長の考えを当てはめると、ほぼほぼ入っているという。

○今井教育長 だから、それを今度は、村長さん言ったように、たくさんあり過ぎるのを少し、もう少しこちら側でもんで、一つどうでしょうかというところをつくっていききたい。

○津金総務課長 それを少し考えてもらいたい。

○有坂村長 そうすると、どういう学校がいいのかというのがおのずと出てくるんじゃないかと思うんですよね。小中一貫校がいいのか、あるいは、義務教育学校がいいのか、小学校統合だけでいいのかとか、そういうものが出てくると思うんですよね。

中には、このままで統合する必要ないんじゃないかという意見もあると思うし。

○今井教育長 では、真紀さん、お願いします。

○高見沢真紀委員 この20年後というのを見て本当に思ったんですけれども、4月1日に本当に悲しいことが起きてしまって、私もちょっと高校時代に関わりのあった子が自死をした

ということがありました。

やっぱり平沢もちょっと私が南牧に来てから片手で足りないどころか、もう本当に両手でも、両手以上に命が亡くなっているということ、現状があるんですよね。やっぱりそのことを考えたときに、20年後に子どもたちが自分の命をきちんと守っていられる状況でなければいけないというふうに思うんです。

もちろん、社会に適応できている子たちはそういうことは心配ないんですけども、ここに失敗してもくじけないと書いてあるんですけども、本当に、心折れたときにどうするかということがきちんと身につけてほしいなというふうに、逃げるときには逃げて、とにかく自分の命を大事にしてほしいと。今、多分、20代の子どもを外に出している親御さんでそのことを知っている人たちは、自分の子どもは大丈夫と言えないなと、みんな思っていると思うんですよね。きっとことが足りなかったとかと、本当に私も自分を責めるところがあるんですけども、学校教育の中で、また、人権の講演会のときなど、本当に同和問題とかそういうことももちろん大事なんですけれども、まず、自分で命というものが、1人で生きているんじゃないことをきちんと学んで社会に出ていってもらいたいというふうに今は本当にそのことを痛切に感じているところです。

○有坂村長 私も、今までというのは学校単体で、学校は学校というような感じだったんですけども、そういう社会とのつながりを子どもたちがいっぱい持てるような学校というのができたらいいなというふうにおぼろげながらあるんですけども。

○高見沢真紀委員 いろんな価値観があっというんだという、この多様性というところで、そういうことを学んで大きくなっていってもらいたいなというふうに思います。

○有坂村長 今、前と比べて核家族になっていて、おじいちゃん、おばあちゃんたちと一緒に生活するとか、そういうのもなかなかないというのが。昔に比べると、そういう中で、いろいろなことを幅広くやっぱり経験させてあげたいし、学んでほしいし、人間、こう生きていく中でいろいろな年代層でいろいろな考え方があって、いろいろな生き方があるんだというのやっぱりみんなに知ってほしいし。

○津金総務課長 では、よろしいですか。

では、この件につきましては、ある程度、村側の村長さんの意見もお聞きできましたので、また、その方向性については教育委員会側で議論を深めていただきたいなというふうに思います。

では、2番目の統合学校の形態について、教育長のほうから補足がありましたらお願いし

たいと思います。

- 今井教育長 それでは、2番目に移らせていただきますけれども、統合学校の形態につきましては、これまでの議論の中で、小中一貫校が望ましいという中間報告がなされております。小中一貫教育では、小中一貫型の小学校、中学校と義務教育学校という2つが今ありまして、それぞれ特色を持った形態を有しています。本日はこれまでの議論や中間報告を踏まえて統合学校の形態についていろいろなご意見を出していただきたいと思っています。

この後、渡辺指導主事から小中一貫校と義務教育学校の特色や違いについて、いま一度説明していただきますので、皆さん、資料を参考をお願いしたいと思います。

渡辺先生、お願いします。

- 渡辺指導主事 義務教育学校とはということで、簡単にまとめました表があります。小中一貫教育は赤枠で囲った義務教育学校、それから併設型小中学校、それから連携型小中学校と3種類があります。

中間答申で出されていたのは、この青色で書かれていた併設型小学校・中学校となりますが、平成28年度に義務教育学校という形態があるというふうに示されています。教育委員会の中でも義務教育学校のところ、塩尻市の檜川小中学校とか、視察に行ったりしながら義務教育学校がこれからはいいのでは。小規模の学校としては義務教育学校がいいのではないかということで話を進めています、大きな違いは、1人の校長の下に1つの教職員組織で義務教育9年間を過ごすというところになると思います。

義務教育学校だといろんな、学校としての制約がなくなることが多いんですけども、そこは今お話いただいた南牧村の子どもたちがどういうふうに育っていききたいかという、育ってほしいかというところを踏まえてどんな形態がいいかというのを考えていくのがいいのではないかなと思っています。

一番はやっぱり9年間を一緒にした学校が義務教育学校というところですね。一つの建物にみんなが通う。それから、一つの学校なので、一緒に学校生活を送るということです。時間割とかそういうのは工夫してやっていきます。

それから、中学生だけではなくて、小学校の5、6年生も教科の先生が教えることができます。教科担任制。中学へ行くと教科担任制になるんですが、それが少し早まることもできます。中学、小学校と併設型の小中一貫校だと、小学校、中学校は別々なので、職員の乗り入れはちょっと制約があるんですけども、それが義務教育学校ではなくなります。

それから、児童会とか生徒会も同じ組織でできます。今、大分児童数、生徒数も減ってき

ているので、一緒に活動することもいいのではないかと思います。

それから、学校行事も1年生から9年生まで一緒に取り組める行事が増えるのではないかと思います。

簡単ですが。

○今井教育長 校長先生はどうなるんですか。

○渡辺指導主事 校長は1人です。

○今井教育長 義務教育学校は1人。

○渡辺指導主事 はい。

○今井教育長 併設型の小中学校は。

○渡辺指導主事 2人います。

○今井教育長 2人。

教頭先生は。

○渡辺指導主事 教頭はそれぞれ、小学校、中学校に。

○今井教育長 小学校、中学校に。

○渡辺指導主事 はい。

それも選ぶことができます。

○今井教育長 あと、PTAは。

○渡辺指導主事 PTAも1つ。

○今井教育長 義務教育学校は1つ。それで、併設型の小中学校は。

○渡辺指導主事 2つになると思います。

○有坂村長 今、佐久穂町は小中一貫校だよ。

○渡辺指導主事 そうです。

○有坂村長 佐久穂町は小中一貫校でやっているけれども、じゃ、将来的に義務教育学校のほうがいいなと思ったら、それは変えることはできるんですか。

○渡辺指導主事 そうです。

長野県でも、信濃町は小中一貫から始まって、義務教育学校という形態ができて、義務教育学校のほうに移管しているという。

○有坂村長 ということは、移管したということは、小中一貫校より義務教育学校のほうがいいだろうということで移管したということだよ。

○渡辺指導主事 そうですね。メリットがあったということだと思います。

- 有坂村長　　メリットがあると。そのメリットというのは具体的に言えば。
- 渡辺指導主事　私の考えでいくと、1人の校長で、同じ考えで小中学校が、学校運営ができるというのは大きなところだと思います。特に規模の小さいところは義務教育学校が合っているのではないかと思います。
- 有坂村長　　この間、佐久穂の町長とちょっとお話をして、小中一貫校でやっているんだけどどうですかというような話をちょっとしたら、そんなに長い時間話せなかったんですけども、町長の言うには、学校に行ってみたりすると、小学校と中学校で授業時間が違うんだって。だから、チャイムを鳴らすのもなかなか、小学校は小学校、中学は中学で鳴らすとというのができないから、チャイムは異なるときは鳴らさないで、ちょうど時間が合ったときは鳴らすと言っていた。
- だから、実際には、じゃ、この義務教育学校にしたら、授業時間というのもやっぱり、どうなるんだい、それは。どうなんですか。
- 渡辺指導主事　授業時間は学校指導要領で決まっているので、小学校は45分、中学校は50分。
- 有坂村長　　だから、義務教育学校でもやっぱりそういうことだよな。
- 渡辺指導主事　そうです。そこは変わりはありません。
- 有坂村長　　だから、それを聞いたときに、子どもたちが混乱しちゃうということは聞いたんだけども。
- 高見澤副村長　義務教育学校にすると、授業の、例えば、6年生と3年生というものは5年生と2年生と、5年間と2年間と2年間という方式も取れるんですよ。
- 渡辺指導主事　そういうことも選べます。
- 高見澤副村長　選べるんですよ。
- 渡辺指導主事　選べますが、私の考えを言っていていいですか。
- やっぱり近隣町村との連携とか、転校したり、逆に転入してきたりというのもあるので、あまり、4、3、3とかもあるんですけども、そこは変えなくてもいいのではないかなと思います。
- 高見澤副村長　9年間というと、非常に引っかかっていて、9年間というところが。というのは、当然、義務教育学校なり、小中一貫校にすると、9年間、この間もちょっとお話しさせていただいたんですが、同じ要は子どもたちでずっと9年間を過ごさないといけないというところなんだよね。

例えば、大きな都市部だと、子どもたちが入れ替えたりするんだけど、うちみたいに1クラスが20人とか30人の中だと、その、要は人間関係というのが1年から中学校3年生まで、ずっと人間関係がつながるわけですよ。上下関係が当然つながるわけです。そこは一つネックだというのがあって、そうはいっても、小中一貫にすれば、中1ギャップと言われるものも解消されるというのも一つの方法なので、そこら辺の渡辺先生のお考えがあったら、ちょっとお聞かせいただければ。

○渡辺指導主事 学年の単位で考えると9年間一緒なんですけれども、これから人数が少なくなっていくのと、その学年の単位だけでは学習というのはとどまらないというか、もう10年後は10人くらいになるわけです。今も5人とか、7人とかでやっている学年もあるんですが、そういう少人数の集団はどこかで関わりを増やしてあげないと、多様な学びとはできないんですよ。そう考えると、例えば、連学年という、5年生だったら6年生と一緒に学習するとか、ほかの他校と連携するとか、もっと地域に出ていくとか、小学校と中学校、中学生が英語で一緒に学習してみるとか、そういう幅を広げてあげる必要が必ず出てくると思います。

○高見澤副村長 ただ、現実問題として、中学校3年生が小学校1年生の面倒を見るかという、そこはちょっと関わりというのも難しいですよ。

○渡辺指導主事 でも、中学生の様子はいつでも見られるわけ。同じ建物の中で、そういう、いつでも面倒を見るとか、いつでも関わるのではなく、時と場合によって、必要なときにといいのでいいと思うんですけれども。

○有坂村長 常態的に視界の中に自然と入っているみたいなのがあるわけだよな。

○津金総務課長 うちらが最後だったのかな。北小のところに小学校と中学校があったのは、多分、うちらが最後。うちらが中学1年まではあって2年から新しい校舎だったんで、教育長たちはもう新しい校舎。

○今井教育長 新しい校舎でした。

○津金総務課長 そうすると、あそこには小学校、中学校相向きあい、校庭は共用だった。中学校がやるときには小学生は遊ばないし、小学校やるときには中学生は出て行くという感じで、そこに300人とか、500人とか。

○有坂村長 不便だったけれども、譲り合いというのもあった。

○津金総務課長 そうですよ。

必然的に上下関係も学べたし、そういう点では、いじめられもしたけれども。

- 吉澤教育委員 関わらなかったな。
- 高見澤副村長 怖くて、中学生とはやっぱり関われなかったですよ、それは。小学校のときは。
- 吉澤教育委員 小学校を面倒を見るとはあまりしなかった。
- 高見澤副村長 なかなかね。
- 吉澤教育委員 不思議だな。考えてみればそうか。
- 渡辺指導主事 中学生は優しいですよ。とても優しく。
- 高見沢教育委員 保育園に実習なんかに行っても、すごくよく遊んでくれてという話を。
- 有坂村長 確かに入学式とか卒業式に行って、俺らの頃とはこんな感じだったのかなというふうに思う。ものすごくみんな仲がいいよな。あの頃は、そんなに仲良くなかった。学年で何か対抗意識。
- 津金総務課長 上下関係がしっかりしていたというか、そういうのがあったですよ。
- 有坂村長 非常に今、あぁいい雰囲気だなというのは感じるよな。
- 渡辺指導主事 逆に、でも、トラブルも成長するチャンスで、何もないというのが一番私はよくない。失敗もそうなんですけれども、成功だけでは駄目です。失敗をすることで、じゃ、次、どうしたらいいかという考えが出てくると思うんですよ。成功は、できてよかったなで終わっちゃうことが多いんですけれども、失敗とかトラブルはチャンスかなと思います。
- 高見沢真紀委員 私は平沢に住んでいるわけで、一番初めに小学校統合という話が出たときに海尻の友達とかと大反対をしたんですけれども、でも、そのときは小学校の統合だったんですよ。でも、今、この義務教育学校ということになれば、学校がどこにできるかはともかく、いずれにしても、二、三十分かけて通う子どもたちが出てくるわけで、そういうふうに考えたときに、私はオーケーと言えないというふうに思っていたんですけれども、でも、中学校3年生も一緒に乗ってくれるんだったら、小学校1年生の親も安心できるかなという気持ちが、そこは本当に一貫になれば一貫なり、義務教育学校になれば、そういうところでは助けられるのかなという気持ちは今はしています。
- できれば、バスの中にお手洗いくらいついていてくれれば、トイレどうしようとか、そういうことがないかなというのは、とにかく1年生の親が心配だと思うんですよ。30分乗っていく。どっちにしても。
- なので、そういう意味でも、中学生がいてくれることのメリットというのはあるのかなというふうに思っています。

○有坂村長 なるほどね。そういう考えは確かにそうだなと思う。

私の場合は、例えば、結構移動時間がかかるとしたら、小学校低学年は低学年用にもうバスを仕立てて、なるべく座っている時間を少なくして直行でというか、今までの通学をもっと細かくして、なるべく時間短縮できればいいなと思ったんだけど、今の話を聞けば、中学生と一緒に乗っていれば安心だなというのも一理ある。

○高見沢教育委員 みんな、面倒見るとかはないかもしれないですけども。

○有坂村長 逆に中学生もそういう小さい子どもたちと一緒に乗って、学びの場でもあるかもしれない。

○高見沢みち子委員 私はやっぱりこの先生の、小学校と中学校、どっちでも教えられるというのが、そこが一番大きいのかなと思っていて、今、みんな教科担任制に、小学校も今、理科専科、音楽専科から始まって、今度、高学年、数学とかも、英語とかもそうなると言っていますし、そうなるとやっぱりどうしても田舎だと、どうしても学力格差というんですか。都市部と田舎ではやっぱり塾に行こうと思っても、みんながすぐ好きなどころに行ける環境ではないし、やっぱり先生を探すのも、今3校あって、それぞれに専科の先生を置くとなると、また大変じゃないですか。距離的なこともあって、なかなか先生を探すのが。村費で今何人もお世話になっていますけれども、それを探すにもなかなか難しい状態で。

やっぱり小学校でも中学校でも、英語でも数学でも、算数、国語を教えられるというのは大きいと思うし、子どもたちもどうしても今担任の先生と合わないとかというのもあるじゃないですか。そうしたら、やっぱり5人から10人になったとしても、やっぱり早く少しでも多くの人数でやらせてあげたいと思うし、体育とかにしる、本当にいろんなゲームとかも、今、なかなか連学年じゃないとできない。ドッチボールにしる、バスケットにしる、できないこともあると思うので、そんなふうに思います。

○有坂村長 渡辺先生、ちょっといいですか。

○渡辺指導主事 はい。

○有坂村長 義務教育学校にすると、その教員の先生というのは資格的にはどうなんですか。小中の両方見られる資格がないと駄目なんですか。

○渡辺指導主事 教員は免許状を持っているので、義務教育学校に勤めたからといって、両方教えられるとは限らなくて。

○高見澤副村長 そうですよ。両方の免状がなきゃ駄目なんですよ。

○渡辺指導主事 中学の免許がないと、中学校は教えられません。小学校は小学校の免許状も

必要ですけれども、例えば、中学の免許のある人が、音楽の例でいくと、中学の音楽を持っていけば、小学校の音楽も教えられます。

○有坂村長 なるほど。兼ねられると。

○渡辺指導主事 はい。

○高見澤副村長 専科はということですよ。

○渡辺指導主事 専科はです。担任は小学校の免許状が必要です。

○高見澤副村長 そうですね。担任はね。

○有坂村長 担任は。

そこらのところで、県の教育委員会のほうから先生を、例えば南牧村が義務教育学校にした場合にあってがってくれるのは、そんなに難しくないのか。

要するに、先生がなかなか来づらくなっちゃうということはないのか。大丈夫なのか。

○高見沢みち子委員 そこを何とか優先的にそういう先生をお願いしますという。

○渡辺指導主事 義務教育学校なので、義務教育学校のメリットを生かす人事をしてもらうのは大事なところですよ。

○有坂村長 ただ、ほら、今年の人事を見ても、3校の校長が一遍に代わったりとか、教頭も校長と一緒に代わったりとかという中で、えらい村で、じゃ、それはちょっと困るから何とかしてくださいと言っても、ほら、通らないでしょう。

○今井教育長 通らないというか、先日、佐久地区の教育委員会の連絡会があった中で、川上村の教育長さんが、なかなか僻地と言われている川上村とか南牧村には40代ぐらいのそういった働き盛りの教職員の先生たちの配置が少ないと。ぜひその配置をお願いしたいという要望はしました。

ただ、我々教育委員が感じているところはやっぱりどうしても先生の配置が偏りがちになっているというのは感じています。ですから、そういったところは引き続き県の教育委員会なり、校長会のほうへお願いしていくという形になるかと思います。

○有坂村長 そういう中でちょっと聞きたいのは、例えば、北小と南小を比べたときに、先生たちというのはやっぱり気持ちの中で、南小はちょっとあれだけれども、北小だったらいいわというようなのはあるのかな。

○高見沢みち子委員 それはあると思います。

私、佐久穂に住んでいる教員の人を知っているんですけれども、北小までならいいけれどもねと言っていました。やっぱり冬は市場坂を上るのが嫌だと。

よく、でも、南小、若い先生が多いというんですけれども、佐久市内はかえって年配の先生ばかりで、若い先生いいなと言っている人もいましたし、だから、それぞれですよ。

でも、基本的にはやっぱり割と遠くから来ている若い先生が南小は多いイメージですよ。こここのところ。

○有坂村長 これは正しいのかどうかというのは分かりませんが、私もいろいろ聞いた中では、以前は先生の意見というのはもう全然認められなくて、例えば、新任の先生なんかは山間部のほうへというのがあったんですけども、最近はやっぱりメンタル面が、先生たちが病んじゃえば困るからということで、先生たちの希望をある程度聞いて、なるべくうちから通えるようなところへ配置するというようなことも聞いたんですけれども、そういう実態はあるんですか。

○渡辺指導主事 採用の方法が変わっています。長野県を4つのブロックに分けて、例えば、ここだと、東信ブロック採用というふうになって、ブロック採用というふうになっているので、一旦採用になれば、東信地区で働くんですけれども、2個目は経験のためにほかのところで働いて、また戻ってくるというふうになっています。

○有坂村長 最初は、じゃ、地元。

○渡辺指導主事 そうです。最初は地元が多いです。

○有坂村長 それで、2年とか4年、3年ぐらいたったら、じゃ、違うところへ。

○渡辺指導主事 経験の、ほかのところも経験が。

○有坂村長 そのときに、例えば南小と言われて、私、嫌ですということは言えない。

○渡辺指導主事 嫌ですは誰も言えませんが、ご事情のある先生もいるので。

○有坂村長 事情はしんしゃくする。

○渡辺指導主事 自分の好き勝手な、わがままとよく言いますが、な異動は誰もできないです。

○高見沢みち子委員 前は2か所に行ってからじゃないと戻ってこられなかったんですよ。

○渡辺指導主事 そうです。

○高見沢みち子委員 それが今は1個でよくなった。

○有坂村長 最初は地元みたいな感じですね。

○渡辺指導主事 そうです。

○高見沢みち子委員 最初は外じゃなかったですか。

○高見沢真紀委員 昔は最初は外でした。

- 有坂村長　　今はそうですね。
- 渡辺指導主事　今は変わった。
- 有坂村長　　メンタルを病まないように、何か、うちから通えるところへまずやってみたいな感じらしい。
- 高見沢みち子委員　だから、やっぱり2か所でとなるとあれだけれども、1か所でいいとなると、東信の中でなかなか本当に南小、川上、ちょっとという人がまた増えちゃったのはあるかなという印象です。
- 有坂村長　　それは村民にこういう現状だよということは言っているの。
- 高見沢みち子委員　建設検討委員会か何かのときに、それはやっぱり言っちゃいけないよねと言っていたんですけども、やっぱりそういうことも分かってもらわないとという感じで、話しました。邦彦さんが。
- 渡辺指導主事　先生は、子どもの教育に携わるのを仕事にしているので、やっぱりここに行けばこういう教育ができるという目玉があると、私は行ってやりたいなと思うと思います。土地だけではなくて、働きやすさとか、働きがいこれから大事ではないかなと思います。多少遠くても、やってみようかなという。
- 高見澤副村長　それは、だから、南牧村の教育の未来像みたいなものがしっかり出来上がってれば、多分、先生方も来るんじゃないかと思う。
- 有坂村長　　ハード面が必要だよな。教員住宅の、いい教員住宅があるとか、寒くないとか、あまり風が吹くところは嫌だとか、そういうのがあるということだよな。
- 高見沢みち子委員　でも、実際、南小なんかは特別支援で力入れて、みんな一生懸命やってきてくれているので、よそから何人か受け入れたりして、やっぱり南小にと、そうやってうまくいっている子も何人もいますし、やっぱりそういうのとは広まるものですよ。
- だから、本当にしっかり。
- 有坂村長　　それと、ちょっと飛んじゃうかもしれないけれども、この間、小諸養護学校というところに行ってきたんですけども、そのいろいろな実態を聞かせていただいたりとか、見てきたんですけども、南牧からも何人か小諸養護学校に通わせていただいているんですけども、小諸養護学校は南牧から通うといいますけれども、遠いから、できれば大日向の分校というんですか、佐久校の分校のほうに出してもらいたいというような考えなんですよ、小諸養護学校は。
- だけれども、それは子どもたちとか親御さんが選んで、いや、どうしても小諸養護学校へ

行きたいんだと言えば、それを受け入れるんだけれども、結構やっぱり親御さんもできたら小諸養護学校へやりたいという希望が多いみたいだね。

そういう中で、物すごく遠いんですよ。寮に入っている子どもだとか、寮に入っているも、金曜日の夕方帰ってきて、月曜日の朝行くという。それも親が送っていくとか。中には野辺山の駅まで歩いて行って、野辺山の駅から電車乗っていく。

そういう中で、できたら、この南佐久の5町村を考えたときに、南牧村もそうなんですけれども、特に、やっぱり、この新しくつくる学校にはそういう小諸養護学校の分校的なのも併設したいなというのを私はちょっと感じたんですけれども。

○津金総務課長 それでは、時間の都合もありますので、学校の形態については今教育委員会のほうから説明がありましたので、それについてはもう少し議論の余地があるのかなと思います。時間をかけて少しずつ進めていけたらなというふうに思っております。

◎その他

○津金総務課長 それでは、次第の4番目、その他でございますけれども、その他で何か教育委員さんのほうから、教育委員会のほうからあれば、お願いしたいと思います。

いかがでしょうか。

○高見澤副村長 ちょっと1点、渡辺先生、いいですか。

先般、信毎の中で、佐久長聖中、佐久長聖が小中一貫校、それから、大日向に小中一貫校、私立の要は小中一貫校をつくるという記事がこの前載っていたんですけれども、今結構公立の学校よりも私立の学校のほうが今、都市部なんかは特にそうですね。人気があるんだけれども、その違いというのはどこにあるんだろう。大きな結構なお金をはたいて入るメリット、どこにあるんだろう。

○渡辺指導主事 私立の場合は、特別な教育課程が作りやすいです。大日向だか、時間割が午前は教科の時間で、午後はフィールドワークというか、自由な時間みたいになっていますが、そういうやっぱり特別な、そういう教育を受けたいという人は行けるようにはなっているんじゃないかなと。

○高見澤副村長 それというのは公立の学校では難しいんですか。

○渡辺指導主事 公立でもできなくはないと思いますけれども。

○高見澤副村長 そういうものがないと、やっぱり特色ある学校というのはできないだろうと私は思うんだよね。ただ、学校統合しただけじゃ。

○渡辺指導主事　そうですよね。

特区申請というのはあるので。

○高見澤副村長　昔、池本さんが教育長のときに、特区申請して、少人数でも。

○渡辺指導主事　30人。

○高見澤副村長　そう、30人。

物理的なお話なんだけれども。

○渡辺指導主事　ほかの町村なんかでは、英語教育に特化した教育課程を編成したいのでといって申請しているところもあります。

○高見澤副村長　そういうことを何かキーにしていかないと、なかなか学校統合というのは私は前へ進まないと思うんですけれども、ハード面はともかくとしても。

○有坂村長　そういう中で、いろいろな父兄がいて、じゃ、学習のレベルというのはどうなんだと。それによって落ちちゃっているんじゃないかという問題も出てくるだろうし。

○渡辺指導主事　学習指導要領はあって、必ずやらなければいけないものというのは決まっているので、そこから逸脱はできません。私立だって同じです。

○有坂村長　だけれども、学力的に、さっきも冒頭で出た、うちの南牧の子どもたちは平均的ですよというのは出たじゃないですか。それが平均より、じゃ、落ちちゃった場合は、やっぱりこれは駄目じゃないかという問題も出てくるだろうし、そこら辺のところはどういうふうに割り切っているのかという。

○渡辺指導主事　でも、そういう特区をして、そこに特化するからといって学力が落ちるとは私は思わないですけれども。

○有坂村長　それで、学力が落ちなければ、特区したほうがいいよね。落ちなければ。

○渡辺指導主事　目玉があるということですよ。

○高見沢みち子委員　学力テスト、もともとそんなにすごく何十点も差があるわけじゃなくて、そんな少しの差異で、やっぱり秋田とか北陸のほうの点数が高いのは、そのテスト対策用の勉強をしているか、していないかという、そういうのもあるみたいなので、一概には言えないと思うんですけれども。

○高見沢真紀委員　さっきの読書の話ですけれども、佐久穂の小中のほうの真ん中にある立派な図書館なんかを見れば、こういう図書館だったら子どもたちも大いに読むだろうなというのがるので、そういう形、そして、また、中学生があれを読んでいたとか、そういうことで刺激されることもあるかなと思うので、そういうことでまた読書量とかは増えていくこと

も可能かなという気がします。

○有坂村長 そうだね。そういう仕掛けが大事だね。

強要するんじゃないくて、自然とそういうところに取り込んでいければ。環境をつくってあげるといふ。

この間、教育長と話していたんだけど、例えば、給食が学校の中に給食センターが来るんじゃないくて、学校と離れた、離れたというか、一体じゃなくて、給食室を離して、その給食室には子どもたちが、学校から一旦出て給食を食べに行つて、その給食センターには福祉センターの、例えば、社協の人たちが、じゃ、お昼を食べに来て、一緒にご飯を食べられるとか、そんなようなことも人との関わり合いの中でいいんじゃないかなという話もちよつとしたんだけど。

○今井教育長 今、総務課長さんからお時間という話もありましたけれども、最初、村長さんから、地区へ出て、いろいろな話を聞きたいという話もいただいたんですけど、じゃ、地区懇談会とかそういったものを開いて、住民の皆さんとの懇談というのを持つということを進めるということですかね。

○有坂村長 それをぜひやりたいと思うんですよ。

できれば、スピーディーに5月中ぐらいで地区全部を回れるような形を。

いろいろな皆さんの意見を聞いて、そして、総合的に。

○今井教育長 それで、今日の問いの未来像とか、形態について最終的に方向性を定めていきたいと、そういうことでいいですか。

○高見沢みち子委員 前回の去年のワークショップでも、本当は保護者の方にたくさん来ていただきたかったですけれども、ほとんどいかなかったんですよ、親世代が。なので、どこか学校とか保育園でそういう親の意見を聞く場を設けたいなという話を去年していたんですけども。

○今井教育長 だから、PTAとか、保育園の保護者会というのとの懇談というのも地区懇談会のほかに設けて、それを聞いてみるということですよ。

○高見沢みち子委員 そういう話もなかなか実現しにくかったんですけども。

本当に親世代の意見が一番聞きたいところなので。

○有坂村長 実際に子供たちを持っている親世代の意見というものを。

○今井教育長 ではそれを5月中にセッティングするという方向で。

ありがとうございました。

○津金総務課長 では、そのほか、よろしいでしょうか。

◎閉会の宣告

○津金総務課長 これで閉めさせていただきますが、よろしいですか。

以上をもちまして、第1回目の南牧村総合教育会議を閉じさせていただきます。お疲れさまでした。

閉会 午後 12 時 03 分